

「神の国の望み」

詩篇 第130篇5節～8節
エペソ人への手紙 第1章15節～19節

説教 岡村 恒牧師

『主イエス・キリストの神、栄光の父が、あなたがたの心の目を明らかにして下さるように』エペソ人への手紙第1章に記された祈りの言葉です。神は、ご自身がどういう存在かを明らかにして下さいました。真の知識と一切の神秘を解き明かす聖霊を私たちに注いで、主イエスによって実現した神の計画を私たちにお示し下さいます。

礼拝の中の〈代禱(牧会祈禱)〉には〈照明祈禱〉と言う名前があります。暗闇の中で必要な物を探して懐中電灯で照らす場面を思い浮かべて下さい。聖霊によって照らされ、見るべき物が本当の姿を目にする話です。エペソ人への手紙は救いの約束について鮮明な仕方で描き出します。その冒頭での祈りの言葉が照明祈禱です。私たちは聖霊によって照らされなければなりません。私たちがどれほど聖書に精通しても、聖霊の照明がなければ、何1つ本当の事はわからないのです。

「神に召されていただいている望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかにかに栄光に富んだものであるか、また、神の力強い活動によって働く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるか」(エペソ人への手紙1章18節-19節) 希望、神の国、神の力、この3つは実は1つなのです。主イエスは「無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。」(ルカによる福音書10章42節)と宣言されました。また「神の国と神の義とを求めなさい。」(マタイによる福音書6章33節)とも言われました。(他に、マタイによる福音書22章37節、ヨハネによる福音書3章16節等)。これらの言葉は『あなたは神に愛され救われる存在だ。』という福音の1点に集中しています。

昨年の東日本大震災以来、〈希望〉という言葉の人々はもう一度見直すようになりました。聖書の御言葉は、本当の希望を指差します。「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わかあがるであろう。」(ヨハネによる福音書4章14節) 主イエスの言葉の力が私たちの中に留まって、そこから溢れ出すのです。主イエスを信じて生き始める人は、あふれる命と喜びを得、

確かな希望を抱くことができるのです。

私たちはやがてこの世界が滅びる時、神の国に迎え入れられると信じています。神の愛を全身全霊で受ける者として神の国の食卓に着く日が来るのです。その神の国は栄光に富んだものです。本物の光は大地が揺れ動き、大波が襲い、空が真っ暗に曇っても輝きを全く失うことはありません。神の国の栄光は光に富み、力に富み、重さに富んでいます。終わりの日、信仰者は栄光の姿に、神のひとり子イエス・キリストと等しい様に変えられます。この希望を与えられ、神の国の約束を握りしめて地上を歩む私たちを、神の絶大な力が支え続けて下さいます。

聖堂から日常生活に帰ると、私たちの心には、様々な誘惑や恐れ、不安や悲しみが入り込みます。しかし神の力は力強く働き続けて下さいます。今日の祈りの中には、力強さを表す言葉が繰り返し登場します。私たちは自分の力に頼って決断し、行動するたびに挫折を味わいます。しかし神は全知全能の神です。具体的な仕方で働いて下さるのです。この地上を同じ希望を抱いて歩む兄弟姉妹を与え、共に神の国の確かさを確認するために主の食卓を用意して下さいました。救いの約束の確かさを、私たちの心と魂に刻み付けて下さるためです。

誰でも主イエスを救い主と信じ、洗礼を受けるなら、この食卓の一員に加えられます。主イエスの肉であるパン、契約の血であるぶどう液をいただく時、これらが確かに、自分の体に入り、肉となり血となることを味わうのです。この事実は、誰にも否定することができません。

やがて到来する神の国もこの食卓と同じだけ確実です。私たちは皆、神の国を受け継ぐのです。今日も神は、私たち一人一人に聖霊を豊かに注ぎ入れ、神の約束が確実である事をお示し下さいました。私たちは感謝を持って、聖霊の助けの中でパンと杯に与(あずか)ります。神の国が早く来るように祈り、神が一日一日心を照らして下さい、なお深く力強く私たちに神の救いの確かさを見せて下さり、信仰を与えて下さるように祈りながらこの食卓を囲みましょう。

(記 説教要約奉仕者)